

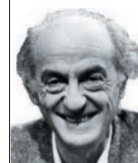


今でも買えるランドルフ作品その2

1961年のデビューから2003年まで、生涯に104もの作品を出版したランドルフさん。その多くは現在廃番となっていますが、「傑作」「名作」と呼ばれる作品は、ロングセラーとして今なお現役で販売されています。しかも、近年は日本語版も多く発売され、日本でのランドルフ人気を支えています。

今回は、小学校低学年くらいからのゲームをご紹介します。

100 years of Alex Randolph 1922-2004



推理と駆け引きの数字当てゲーム



↓相手のタイルは見える



↓こっちが自分のタイル



木製ドメモ 2,530円

6才〜2〜6人 / 5〜15分 / クロス (日本)

見えない自分のタイルを当てるゲームです。タイルは1が1枚、2が2枚…7が7枚。自分以外のプレイヤーのタイル、場に出ているタイルから推理します。当たれば、自分のタイルは場に出せます。手札がなくなれば勝ち。

サイコロもう1個振って勝負!



サイコロの合計が7を超えたらドボン↓

ウミガメの島 2,800円

7才〜2〜7人 / 30分 / メビウスゲームズ (日本)

南の島の周囲を泳いで回って、砂浜にたどり着くと、たまごカードがもらえます。カードがなくなったら終了。

運河の「輪」を作る



ベニスコネクション 2,200円

8才〜2人 / 15分 / ビチカート・デザイン (日本)

16枚しかないタイルを置いていって、自分の手番で運河を丸く繋ぐことができた人が勝ち。簡単なようで深い。

イモムシのレース



←出した数字が被らなければ、その分進める

ワームアップ 2,530円

6才〜3〜5人 / 15〜20分 / クロス (日本)

相手と違う数字カードを出して、自分のイモムシをいち早くゴールさせれば勝ち。相手の進路を妨害したり、ゴールを遠ざけたりできるのも楽しい。

対岸を結ぶ60年前の傑作



ツイクスト 4,730円

8才〜2または4人 / 45分 / ジーピーゲームズ (日本)

盤の両端には白と黒のライン。自分の色のペグとブリッジを用いて、自分の色の2本のラインをつなげば勝ち。

ロボットを動かすパズルをいち早く解く



ハイパーロボット 5,500円

10才〜1〜∞人 / 30分 / メビウスゲームズ (日本)

チップと同じ色のロボットを、そのマスに何手でたどり着けるかを、プレイヤー全員で考えます。ロボットは動き出すと壁や他のロボットに当たるまで止まれません。



YouTube で遊び方紹介
今回ご紹介した6点の遊び方を動画でご紹介しています。



ラズビー7 News



ついに「ハイパーロボット」が日本語化！パズルをゲームにすると、さすがランドルフさん！大人気で盤面を囲んで「あーでもない、こーでもない」と考えるのは楽しく、答えが閃いた時は快感。一人でも遊べます。パズル好きにお薦め。

佐々木 隆行 (ささき たかゆき)
百町森スタッフ。アレックス・ランドルフ研究者。2008年以降、ランドルフさんの功績を忘れないようにと、誕生日と命日にあたるGW期間中に「ランドルフ展」や「ガイスター大会」を開催している。



● ショーウィンドウでミニ・ランドルフ展開催中！ ● ランドルフさんについてのライブ配信を定期的に行っています。次回は、7月23日(土) 午後5時の予定です。